

環境改善を実施した林内ホダ場土壌の放射性物質状況の変化 (4)

— 環境改善 (A₀層除去) を実施してから約3年半後 (28年4月) の結果 —

1 はじめに

土壌に含まれる放射性物質がホダ木に及ぼす影響を抑えるために、堆積有機物層 (A₀層) の除去 (環境改善) が行われています。環境改善による土壌の放射性物質濃度 (以下「濃度」と書く) の低減効果は、実施の1年半後でも持続することが明らかになっています (林業技術情報No.65)。A₀層の濃度は、新たな落ち葉により上がる可能性がありますので、環境改善から約3年半後のA₀層の濃度と、地面1m²あたりの放射性物質量 (以下「量」) を測定し、これまでの結果 (No. 60、65、78) と比較して、環境改善の効果の持続性を検討しました。

区 (赤矢印) の1/2~1/3程度でした。このことから、環境改善の効果は除去の3年半後でも続いていることが確認できました。また、濃度は全体的に低下傾向を示し (図上段)、1m²当たりの量も前々年より小さく、前年と同程度でした (図下段)。このことから、樹上の枝葉の濃度も、事故直後より下がっていると思われま



除去3年半後の除去区の地表 (スギ林)

2 調査方法と結果

【方法】平成24年11~12月に、一関市内のスギ林、アカマツ林、広葉樹林の3調査地に、A₀層除去区と非除去区を設けました。環境改善から約3年半後 (平成28年4月) に、各区内の13~16点からA₀層とA層を採取して、生重量当たりの濃度と量を求めました。(採取方法はNo.60参照)

【結果】各調査地の地表には樹上から枝葉が落ちていましたが (写真)、除去区の濃度 (青矢印) は依然として各調査地で非除去区 (赤矢印) より小さな値を示し、1m²当たりの量も、除去区 (図下段、青矢印) が非除去

3 成果の活用

環境改善の効果の持続性は確認できましたが、放射性物質は依然として地面に存在するため、今後も栽培管理を確実に実施することが必要です。

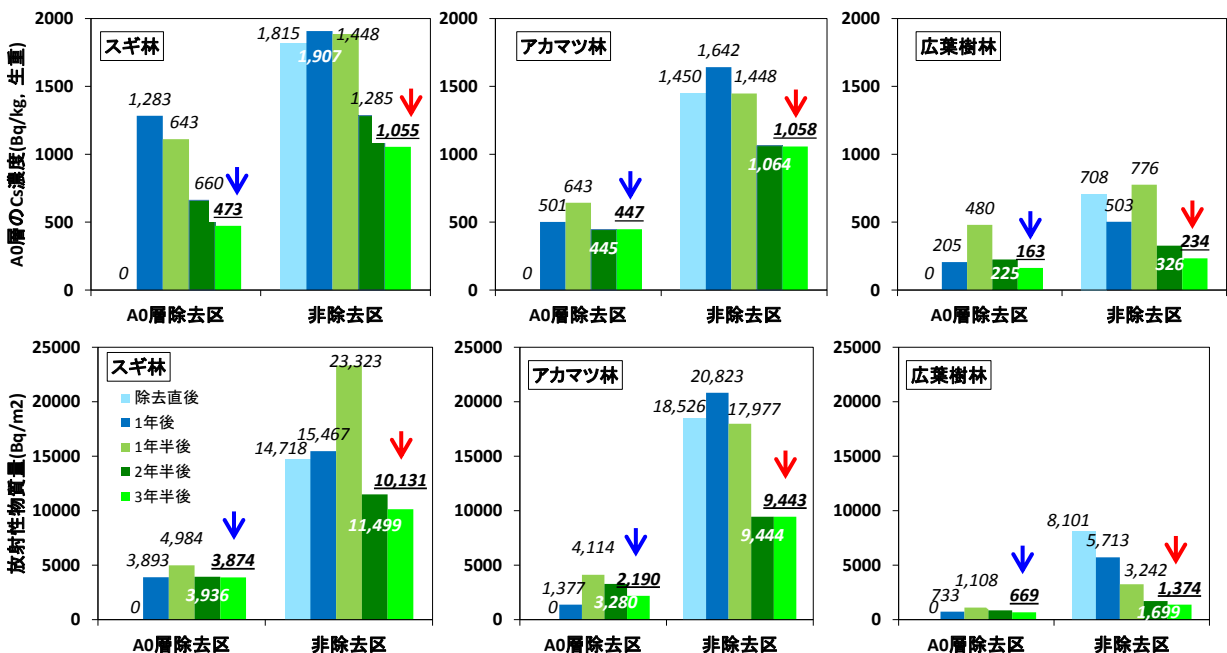


図 A₀層の放射性物質濃度 (上段) と放射性物質量 (下段)

棒の上の数字は測定値。最新(H28)の値は太字+下線で示した。

(担当 研究部 上席専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536
 F A X 019-697-1410